

紀州まるごとツアー

7月31日(月) ~ 8月2日(水)

IN 和歌山県立潮岬少年自然の家

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発 白良浜遊び	石拾い 施設到着	夕飯づくり 振り返り
2日目	くじらの博物館見学	イルカスイム体験	お楽しみタイム 振り返り
3日目	清掃・施設出発	お土産購入タイム メロン狩り・食べ放題	

一日目: まだまだ続く夏空の下、キャンプが始まりました。尼崎で全員集合し、グループに分かれると出発です。顔馴染みの方からはじめましての方まで、自己紹介から隔てなく交流されていました。尼崎を出発し、道中の車内でしっかりと談笑されていたので、昼食の頃には、すっかりグループが出来上がっていました。昼食後は“白良浜”にて海水浴です。真っ白な砂浜と透き通った海に全員大興奮です!! 多少波が高くても、それさえも楽しめる程、存分に堪能しました。海水浴が終わると、“志原海岸”に行き、石拾いを行いました。ここの石は海流の関係から全て丸くなっています。今日と明日、この石に絵を描き、思い出の石にさせていただきます。描きやすそうな平たい石を選びました。小さいものから大きいものまで、ご自身が納得のいく石を見つけました。施設に到着する頃には夕焼けがキレイに見えており、大分お疲れの色も伺えました。到着後すぐに入浴を済ませ、オリエンテーションを終えると、最寄りのスーパーへ夕食を買いに向かいました。この時に再び活気を取り戻し、各々食べたいものを購入させていました。食後は、拾ってきた石に思い出の様子を描き、皆の前で話していただきました。全てのプログラムが終了し、部屋に戻り、布団に入るとすぐに寝息が聞こえてきました。明日は一日遠足です。しっかり休んで、明日も楽しみましょう!!



二日目: 昨晩はしっかり休まれたのでしょうか。朝から元気な声が聞こえてきました。朝の支度を済ませると、朝食づくりとバスの清掃、片付けに分かれて作業に取り掛かりました。朝食はキャンプ定番飯、【パックサンド】です。今回初めて作るメンバーを中心に行いました。慣れない手つきでしたが珍しそうに、楽しく作っておられました。バスの清掃、片付け組はキャンプベテラン勢で行いました。何も言わずとも自分達で進められるので、さすがの一言でした。朝食を済ませると、早速遠足に出発です。午前は“ドルフィンベェスさん”がされている【イルカスイム】です。着たことのないウェットスーツを身に纏い、イルカと沢山触れ合ってください。初めは思っていた以上のイルカの大きさに驚きを見せていましたが、慣れてくると自ら撫でたり、触ったりされていました。そしてイルカの背びれに捕まり、一緒に泳いだ時、驚きと感動と楽しさが混ざり、なんともいえない表情をされていました。最後はフリータイムという事で、何度もイルカに捕まり、一緒に泳ぎ楽しみました。イルカは不安にされている方を見つけると、優しく寄り添い、一緒に泳いでくれます。イルカの優しさにも触れました。たっぷりイルカと触れ合った後、昼食を済ませ、午後は“くじらの博物館”へ向かいました。ここには剥製や標本、生きたくじらがあり、様々な角度から知ることができます。イルカとくじらのショーもあり、皆喜んで鑑賞しました。お土産コーナーでは、博物館限定の品もあり、購入されていました。博物館をたっぷり堪能し、出発する頃はもう夕方になっていました。施設までの帰りの車内は疲れから、皆



休んでいました。施設に戻ると皆で夕飯づくりをしました。各グループで料理を作り、ビュッフェ形式でいただきました。お腹もペコペコなのでしょう、ご飯もおかずも限界まで食べました。食後は振り返りです。イルカの絵を描いたり、くじらのショーの様子を描いたりしました。皆、思い出を沢山つくったようです。幸せそうに就寝されていました。



三日目： 昨日の疲れが響いているのか、起床の合図までとても静かな朝でした。眠たい体を必死に起こして、片付けや荷物整理を行いました。朝食の頃には目は覚め、いつもの元気一杯さが伺えました。朝食後、お世話になった施設の清掃を行いました。清掃を終えると少しの間ですが、プールを楽しみました。朝から暑く、火照った体にプールの冷たさは最高で、遠くからでも楽しまれている声を聞くことが出来ました。そして施設を出発する時間になりました。施設の方に御礼を伝えて出発しました。本州最南端の碑に寄り道をして、お土産を購入しに、“とれとれ市場”へ向かいました。ここには和歌山県のお土産が集まっており、何を買おうか迷われていました。「〇〇にお買い得商品あるぞー！！」と情報を共有される姿も伺えました。市場を出発し、最後のプログラムである、【メロン狩り、食べ放題】に到着しました。皆さんの顔と同じくらい大きなメロンに驚き、「早く食べたい！！」ととても楽しみな様子でした。収穫後は、待ちに待った【メロン食べ放題】です。食べ頃に熟れ、しっかり冷えたメロンは、暑さを吹き飛ばすほどの美味しさでした。何切れもおかわりをされ、このキャンプで一番最高の笑みが溢れていました。十分にメロンを堪能し、尼崎に向けて出発しました。帰りの車内はさすがに疲れたのでしょうか、DVDを観つつ、休まっていた。様々な体験をされ、沢山の思い出を作られたので、最後まで楽しかった話をされていました。



<キャンプ総括>

今年もどのプログラムひとつも欠けることなく終わることが出来ました。今年で三年連続ご参加いただいた方が、二日目のくじらの博物館見学の際にボソッと、「ここ飽きた…。」と仰いました。それに対して間髪入れず担当のグループリーダーが、「飽きたじゃなくて、飽きない、飽きさせない努力をしよう！！」と言いました。当キャンプは、他のキャンプに比べて体験できるプログラムが多く、初めての方はどのプログラムも楽しく、輝いていると思います。しかし、何度もご参加いただくと、内容に好き嫌いが生じます。それは当然のことであり、メンバーが仰った事は十分に理解できます。その上で大切な事は、与えられたプログラムをそのまま味わうのではなく、自身で味付けを加え、自らでどう『進化させるか』です。飽きたから行かない、やらないのではなく、『飽きないように』、そして我々は『飽きさせないように』、創意工夫が必要です。プログラムに甘んじるのではなく、リーダーが伝えた言葉を今一度胸に刻んで、我々も皆様に最高の思い出を提供して参ります。

(竹中 哲郎)